

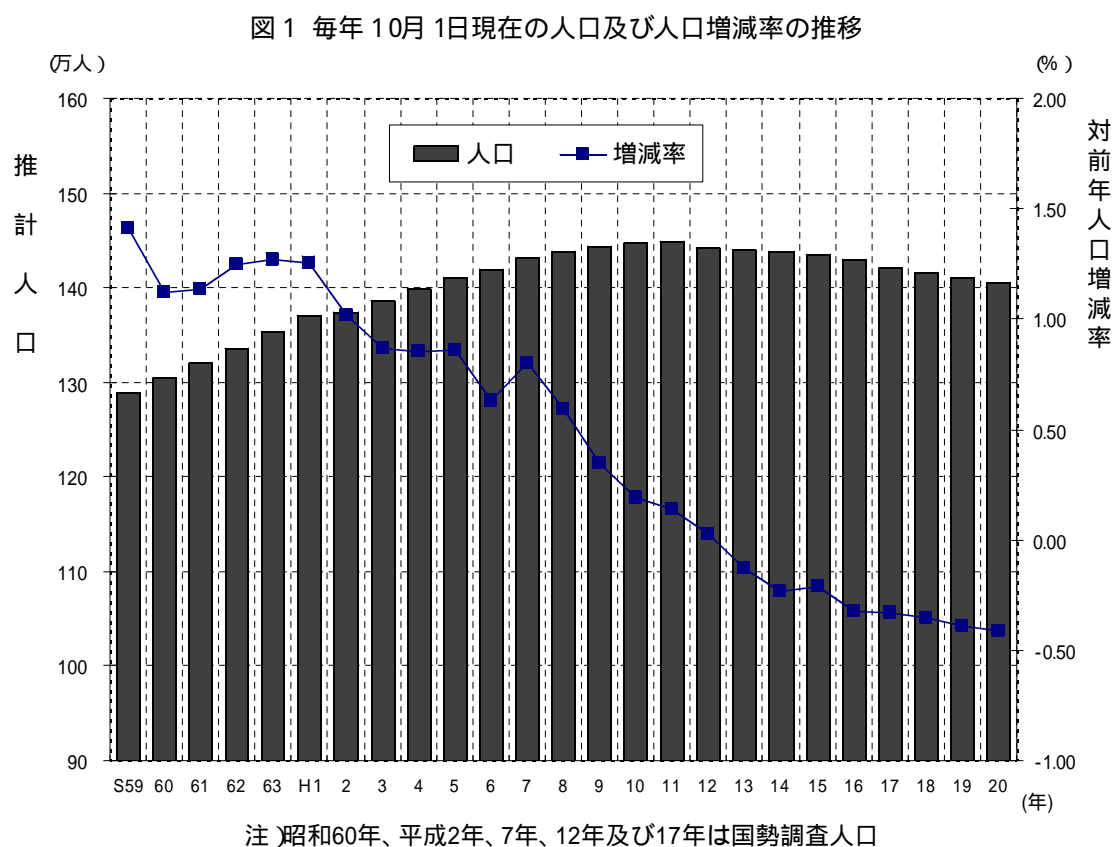
結果の概要

1 人口総数

奈良県の人口は、1,405,074人で9年連続の減少 (図1)

平成20年10月1日現在の奈良県の推計人口は1,405,074人(前年比5,751人(0.41%)減)で、平成12年以降9年連続の減少となっている。

また、大正9年の第一回国勢調査の人口は564,607人であり88年前と比べると約2.5倍になっている。(統計表付表1、40・41頁参照)



市部人口は、全体の78.8% (表1)

市部・郡部別にみると、市部が1,106,868人、郡部が298,206人で、市部が全体の78.8%を占めている。

市町村別の人口は、奈良市が366,340人で最も多く、次いで橿原市(124,457人)、生駒市(115,882人)の順となっている。

また、最も少ないのは、野迫川村(665人)で、次いで上北山村(710人)、黒滝村(943人)の順となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表1 市町村別人口

	人口の多い市町村			人口の少ない市町村		
	市町村名	人口(人)	構成比%	市町村名	人口(人)	構成比%
1	奈良市	366,340	26.07	野迫川村	665	0.047
2	橿原市	124,457	8.86	上北山村	710	0.051
3	生駒市	115,882	8.25	黒滝村	943	0.07
4	大和郡山市	89,553	6.37	下北山村	1,162	0.08
5	香芝市	73,436	5.23	天川村	1,629	0.12

2 人口動態(自然動態及び社会動態)

1年間の人口増減数は、5,751人、増減率は0.41%(前年0.39%)で減少幅が拡大

(表2、表3、図2、図3)

平成19年10月1日から平成20年9月30日までの1年間の人口動態をみると、自然動態(出生及び死亡の動き)は1,309人(増減率0.09%)の減少、社会動態(転入及び転出の動き)は4,440人(同0.31%)の減少、さらに外国人が2人(同0.00%)の減少で、併せて5,751人(同0.41%)の減少となり、前年の増減率0.39%に比べ減少幅が拡大している。

また、その推移をみると、平成9年以来12年連続で自然増減数(出生児数-死亡者数)が社会増減数(転入者数-転出者数)を上回っている。(統計表第1表~第4表、16~23頁参照)

さらに、人口動態を月別でみると、自然動態では平成20年6月のみ、社会動態では人口移動時期である同年4月のみが、それぞれ増加で、その他の月はすべて減少となっている。

増減数	5,751人
— 自然増減	1,309人
出生	11,097人
死亡	12,406人
— 社会増減	4,440人
転入	28,914人
転出	33,354人
— 外国人増減	2人

表2 人口動態

(単位:人)

年次	人口	対前年増減数		自然増減		社会増減		外国人増減
			率(%)		率(%)		率(%)	
昭和61年	1,319,760	14,894	1.14	6,006	0.46	8,875	0.68	13
昭和62年	1,336,256	16,496	1.25	5,749	0.44	10,603	0.80	144
昭和63年	1,353,193	16,937	1.27	5,496	0.41	11,093	0.83	348
平成元年	1,370,135	16,942	1.25	4,946	0.37	11,997	0.89	1
平成2年	1,375,481	13,993	1.02	4,271	0.31	9,295	0.68	427
平成3年	1,387,442	11,961	0.87	4,192	0.30	7,067	0.51	702
平成4年	1,399,276	11,834	0.85	3,956	0.29	7,296	0.53	582
平成5年	1,411,258	11,982	0.86	3,721	0.27	7,994	0.57	267
平成6年	1,420,196	8,938	0.63	3,833	0.27	5,030	0.36	75
平成7年	1,430,862	11,326	0.80	3,561	0.25	7,546	0.53	219
平成8年	1,439,252	8,390	0.59	3,742	0.26	4,480	0.31	168
平成9年	1,444,340	5,088	0.35	3,432	0.24	1,547	0.11	109
平成10年	1,447,134	2,794	0.19	3,501	0.24	876	0.06	169
平成11年	1,449,138	2,004	0.14	2,725	0.19	630	0.04	91
平成12年	1,442,795	475	0.03	2,852	0.20	2,337	0.16	40
平成13年	1,440,920	1,875	0.13	2,590	0.18	4,969	0.34	504
平成14年	1,437,611	3,309	0.23	2,149	0.15	5,380	0.37	78
平成15年	1,434,576	3,035	0.21	1,252	0.09	4,212	0.29	75
平成16年	1,429,969	4,607	0.32	960	0.07	5,698	0.40	131
平成17年	1,421,310	4,740	0.33	359	0.03	4,643	0.32	262
平成18年	1,416,323	4,987	0.35	288	0.02	4,627	0.33	72
平成19年	1,410,825	5,498	0.39	435	0.03	5,091	0.36	28
平成20年	1,405,074	5,751	0.41	1,309	0.09	4,440	0.31	2

平成2・7・12・17年の人口は国勢調査確定値であり、増減数(増減率)とは一致しない。

表3 月別人口動態

(単位:人)

年 月	増減総数	自然動態			社会動態			外国人 増減
		出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	
平成19年								
10月	71	1,052	1,060	8	2,223	2,372	149	86
11月	317	916	996	80	1,796	2,063	267	30
12月	235	842	1,048	206	1,887	1,917	30	1
平成20年								
1月	699	964	1,342	378	1,553	1,819	266	55
2月	979	914	1,114	200	1,846	2,581	735	44
3月	2,105	900	1,116	216	5,091	7,008	1,917	28
4月	495	922	960	38	4,924	4,443	481	52
5月	458	860	952	92	1,945	2,322	377	11
6月	293	930	907	23	1,764	2,094	330	14
7月	321	972	1,008	36	2,001	2,203	202	83
8月	298	900	927	27	2,046	2,300	254	17
9月	470	925	976	51	1,838	2,232	394	25
計	5,751	11,097	12,406	1,309	28,914	33,354	4,440	2

図2 月別自然動態

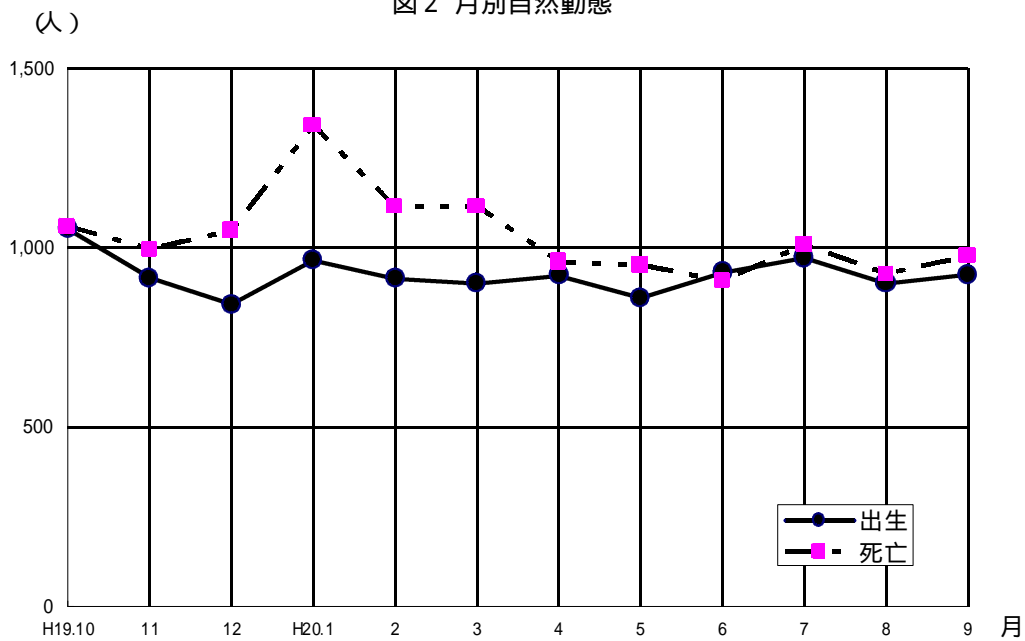
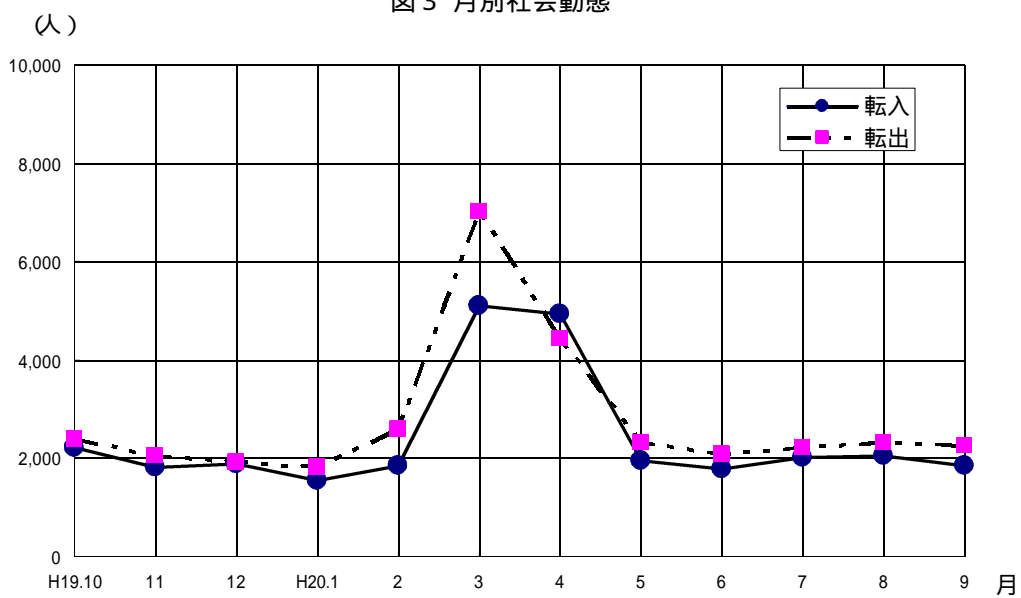


図3 月別社会動態



人口増加数は生駒市・香芝市が836人で最多 (表4)

この1年間で人口が増加したのは5市町、減少したのは34市町村であった。

1年間の人口減少数5,751人のうち、市部が3,108人の減少、郡部が2,643人の減少となった。

また、市町村別にみると、増加数が多いのは生駒市(836人)、香芝市(836人)、葛城市(217人)の順で、減少数が多いのは奈良市(1,241人)、大和郡山市(779人)、宇陀市(695人)の順となっている。(統計表第1表、16頁参照)

表4 市町村別人口増減数

	増加数の多い市町村		減少数の多い市町村	
	市町村名	増加数(人)	市町村名	減少数(人)
1	生駒市・香芝市	836	奈良市	1,241
2			大和郡山市	779
3	葛城市	217	宇陀市	695
4	広陵町	162	五條市	607
5	斑鳩町	45	大和高田市	594

人口増加率は香芝市が1.15%で最高 (表5、図4)

市町村別の人口増加率は香芝市が最も高く、1.15%であった。

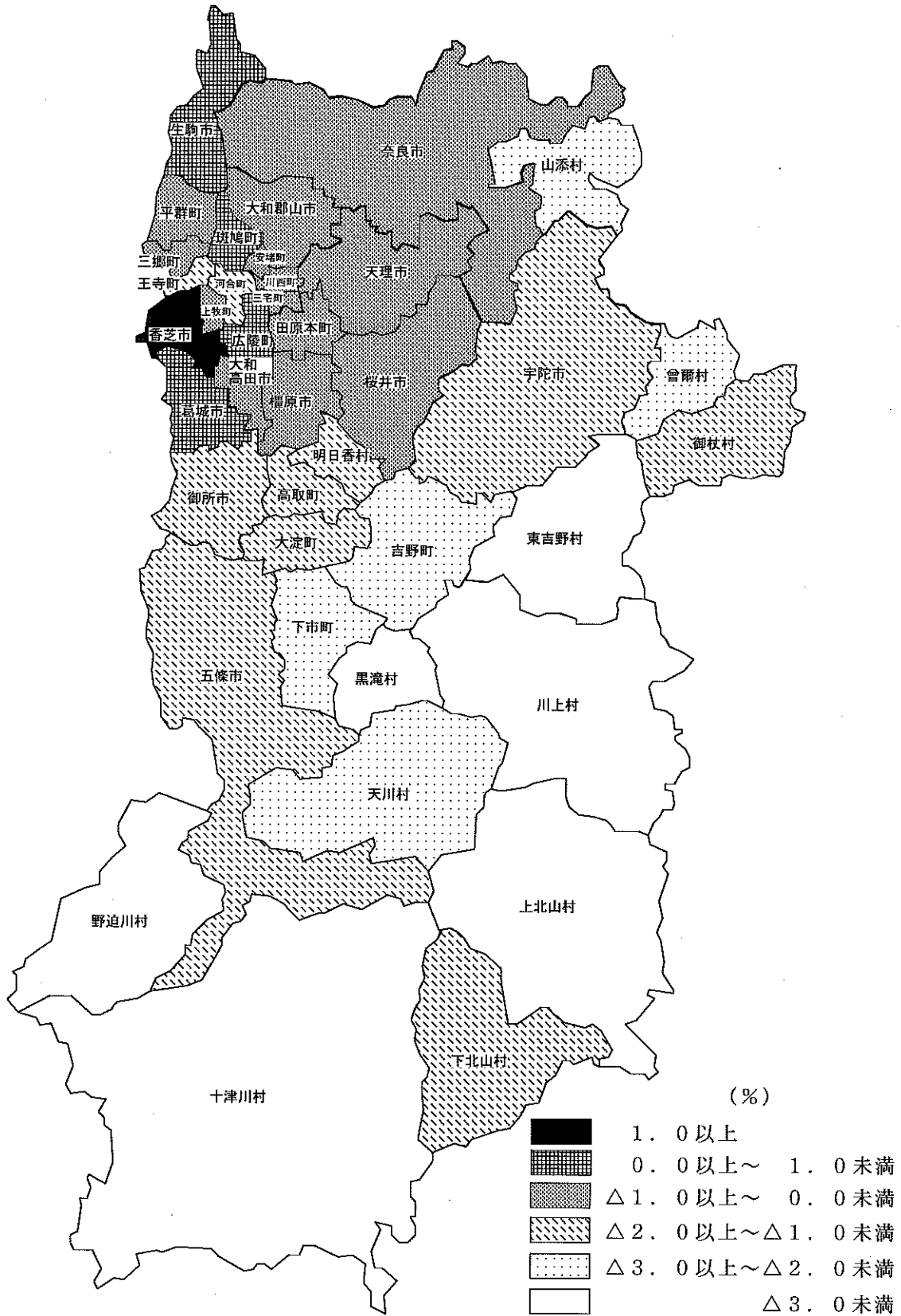
次いで生駒市(0.73%)、葛城市(0.62%)となった。

また、減少率が最も高いのは、川上村(5.00%)で、次いで野迫川村(4.86%)、東吉野村(4.37%)の順となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表5 市町村別人口増減率

	増加率の高い市町村		減少率の高い市町村	
	市町村名	増加率(%)	市町村名	減少率(%)
1	香芝市	1.15	川上村	5.00
2	生駒市	0.73	野迫川村	4.86
3	葛城市	0.62	東吉野村	4.37
4	広陵町	0.49	上北山村	4.18
5	斑鳩町	0.16	黒滝村	3.97

图4 市町村別人口増減率



3 人口密度

人口密度は、大和高田市が4,190.1人 / Km²で最高 (表6、図5)

奈良県の人口密度(1平方キロメートル当たり人口)は380.7人であった。そのうち、市部が870.0人、郡部が123.3人となっている。

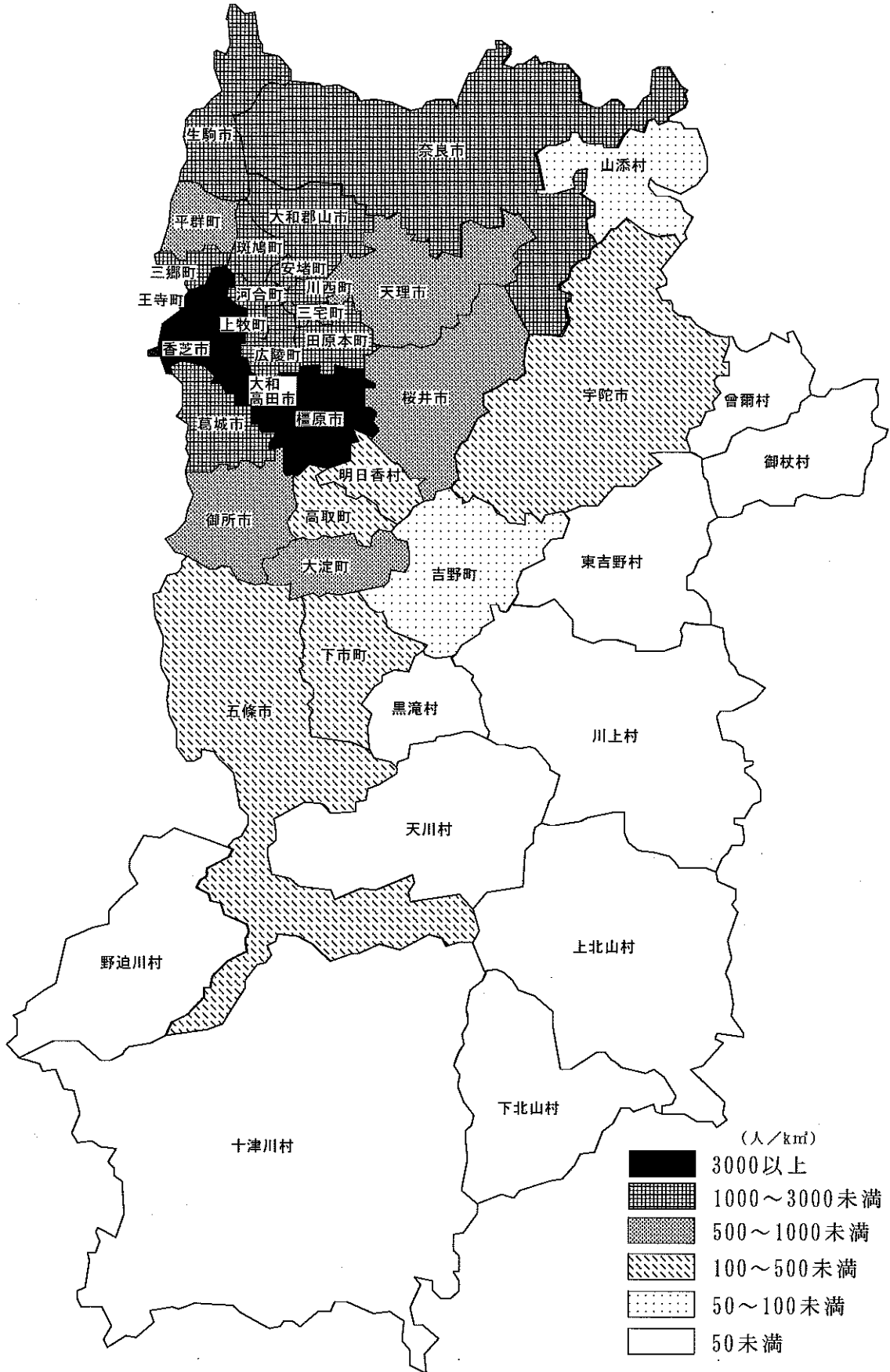
市町村別では、最も高いのは大和高田市(4,190.1人)で、次いで上牧町(3,959.8人)、王寺町(3,176.3人)の順となっている。

また、最も低いのは上北山村(2.6人)で、次いで野迫川村(4.3人)、十津川村(6.1人)となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表6 市町村別人口密度

	人口密度の高い市町村		人口密度の低い市町村	
	市町村名	人 / km ²	市町村名	人 / km ²
1	大和高田市	4,190.1	上北山村	2.6
2	上牧町	3,959.8	野迫川村	4.3
3	王寺町	3,176.3	十津川村	6.1
4	橿原市	3,149.2	川上村	6.5
5	香芝市	3,030.8	下北山村	8.7

图5 市町村別人口密度



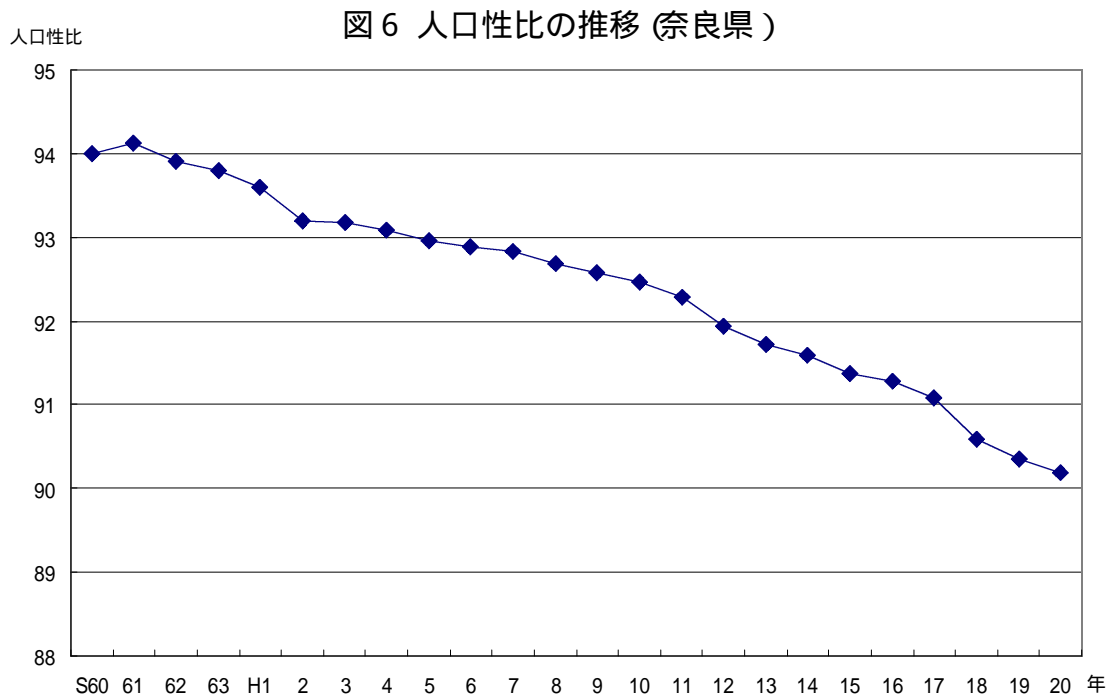
4 人口性比 (女子 100人に対する男子の数)

人口性比は 90.18 で、昭和 62 年以來 22 年連続で減少 (図 6)

奈良県の男女別人口は、男子 666,272 人、女子 738,802 人で、女子が男子より 72,530 人多く、人口性比は 90.18 で昭和 62 年以來 22 年連続で減少が続いている。

また、市町村別にみると、人口性比が高いのは、十津川村 (106.13)、野迫川村 (105.88)、天理市 (95.98) の順で、低いのは、曽爾村 (87.14)、吉野町 (87.15)、御所市 (87.37) の順となっている。

(統計表第 1 表、16・17 頁参照)



5 世 帯

世帯数は556,329世帯で増加を続けているが、1世帯当たりの人員は2.53人で年々縮小傾向

(図7)

平成20年10月1日現在の世帯数は556,329世帯で、前年と比べ4,912世帯(0.89%)増加した。

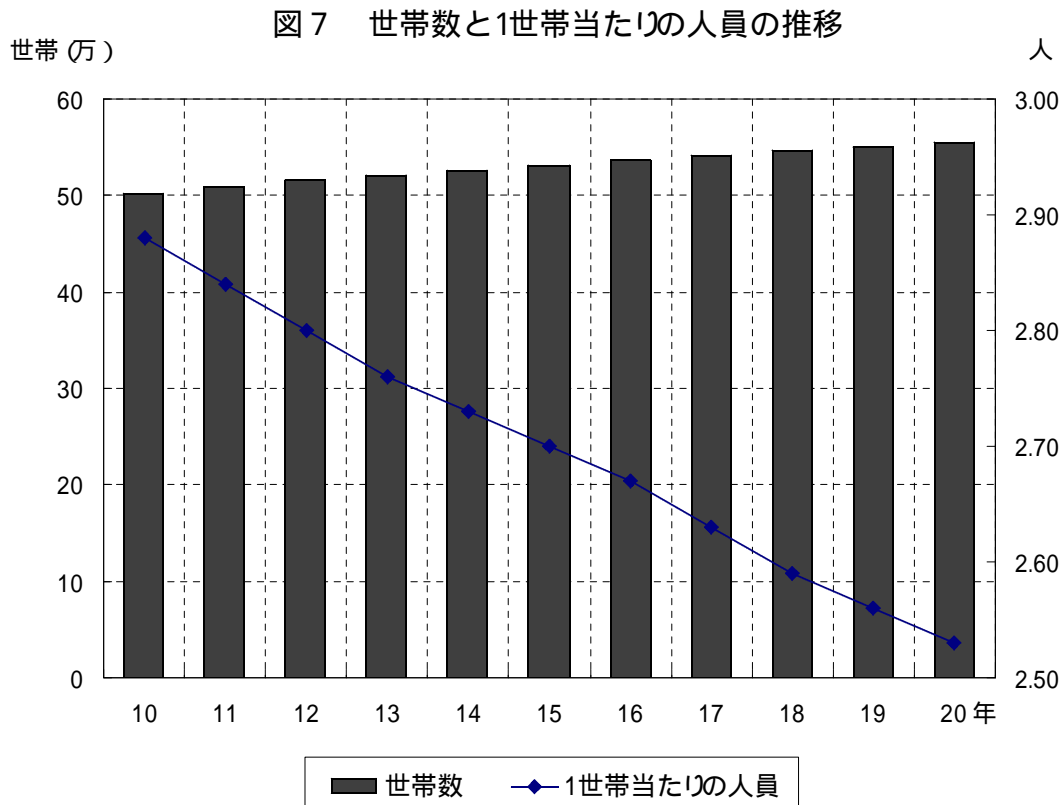
一方、1世帯当たりの人員は2.53人で、前年と比べ0.03人の減少となった。

このように、人口総数は平成12年以降連続して減少している中で、世帯数は増加を続けているが、世帯規模は年々縮小している。

1世帯当たりの人員を市町村別にみると、山添村が3.20人で最も多く、次いで広陵町(3.02人)、明日香村(2.84人)、田原本町(2.79人)、葛城市(2.78人)の順となっている。

また、最も少ないのは、下北山村(1.75人)で、次いで川上村(1.82人)、上北山村(1.97人)、十津川村(2.03人)、東吉野村(2.07人)の順で、吉野郡内の町村が続いている。

(統計表第5表、24頁参照)



6 社会動態 (県外移動)

県外移動者数は、11年連続の転出超過(4,440人)で、転入前・転出先とも大阪府が最多

(図8、表7)

この1年間に、県外から本県へ転入して来た人は28,914人、本県から県外へ転出した人は33,354人であり、差し引き4,440人の転出超過となっている。

また、本県では昭和40年に調査が始まって以来転入超過が続いていたが、平成10年からは11年連続で転出超過となっている。

全国ブロック別移動状況では、転入前・転出先ともに近畿ブロックが最も多く、都道府県別にみると、転入前では大阪府(10,323人)、京都府(2,531人)、兵庫県(1,929人)の順で多く、転出先では大阪府(10,409人)、京都府(3,390人)、東京都(2,461人)の順となっている。

(統計表第8表、30頁参照)

図8 全国ブロック別移動状況

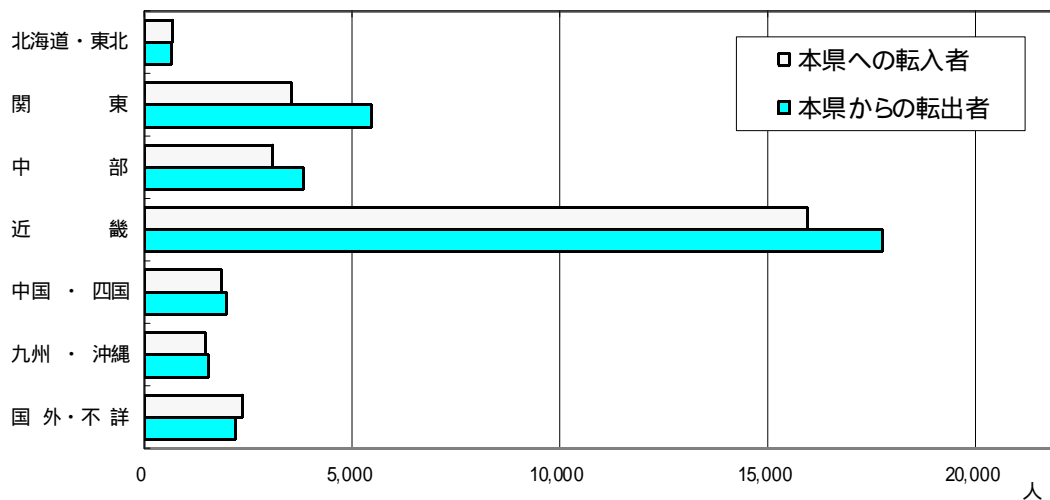


表7 都道府県別移動状況(上位10都道府県)

	本県への転入			本県からの転出		
	都道府県名	人数(人)	構成比(%)	都道府県名	人数(人)	構成比(%)
1	大阪府	10,323	35.70	大阪府	10,409	31.21
2	京都府	2,531	8.75	京都府	3,390	10.16
3	兵庫県	1,929	6.67	東京都	2,461	7.38
4	東京都	1,355	4.69	兵庫県	2,451	7.35
5	三重県	1,015	3.51	愛知県	1,364	4.09
6	愛知県	925	3.20	三重県	1,194	3.58
7	神奈川県	917	3.17	神奈川県	1,137	3.41
8	和歌山県	630	2.18	千葉県	887	2.66
9	千葉県	553	1.91	滋賀県	788	2.36
10	福岡県	548	1.90	和歌山県	707	2.12

7 市町村別にみた社会動態

5市町が転入超過、34市町村が転出超過 (図9)

社会動態 (4,440人)を市町村別にみると、県内移動と県外移動を併せた総数で5市町が転入超過、34市町村が転出超過となっている。

転入超過数の多いのは、生駒市 (605人)、香芝市 (381人)、葛城市 (188人)の順で、転出超過数の多いのは、奈良市 (947人)、大和郡山市 (658人)、大和高田市 (536人)の順となっている。

(統計表第2表の1、18・19頁参照)

